

# 三十三間堂

高知小4年 東村 芽楼

七月がもうすぐ終わりといいろに、父と母から、とおきのサブライズがありました。それは、八月十四日から八月十八日まで四泊五日の京都旅行です。私はその日からからの二週間ほどがすごく長く感じました。

出発の日、私は父と母と妹といっしょに、車に乗って京都へむかいました。

京都では、京都かんバスに乗って、金かく寺、清水寺、三十三間堂など有名なお寺を次々とめぐりました。なぜお寺をめぐることができたのかというと、母が、「お寺を見せることで、芽楼が、れき史にきょう味を持ってくれたらいいな。」と言ったからです。

いろいろ行ったお寺のなかでも私が一番きょう味深かったのは、二回目になすねた三十三間堂でした。私は三十三間堂に入る前から、お父さんに、「このお寺には、千一休の仏像があつて中央には、大きな仏像がいらつしやるからね。」と教えられていたので、なんとなく建物の中をイメージしていました。



パンフレットや絵はがきを見ながら、「いつか世界遺産にも行ってみたい」と話す東村芽楼さん(高知市塩屋崎町)

入ってみると、私のイメージどおり、いろいろなお顔やお姿をした仏像がずらりと並んでいました。中央にはどんな形をした仏像がいるのか、私は見たことがありません。走ってまん中のところへ行きました。なぜなら、千一休の中央におかれているのだから他の仏像より、もっとすごい仏様だろうと思ったからです。

中央の大きな仏像には、千の手がついていて、頭の上には六つの小さなお顔がならんでいました。すると母が、「これは、十一面千手眼か

ん世音といつて蓮慶の長男、湛慶が八十二歳の時に造ったんだって。鎌倉時代の名作とひょうかされている仏様よ。」と説明してくれました。私は、「よう知りちゅうね。パンフレットにのつちゅうきょう。」と言って、パンフレットを見てみました。読んでみると、パンフレットには他にも色々なことが書いてあってとても勉強になりました。

私はなぜこのお寺が三十三間堂という名前なのか、その由来を知りたかつたので、そこも読んでみると、正面の柱間に「三十三」あるため、この数は、観音菩薩が三十三の姿に姿にして衆生を救うと言われているからだそうです。私は(れき史)つて知れば知る

ほどおもしろいなあ)と思いましたが、私が家族にそのことを教えてあげると、「すごいね、それどこで見つけたの?」

と、お父さんが聞いてきたので、私は少しぐいになりにました。そのとき、近くにいたおばさんが、「千一休の仏像の中で、自分にそっくりな仏像がいたら、幸せになれるんだよ。」と教えてくれました。おばさんにお礼を言うと、私はきつそく自分の顔に似た仏像がいるか、必死で探して見ました。だけど、結局見つかりません。でもその後、私はとても思念が持ちになりました。

でもその後、私はその千一休の仏像の前の方にある神様の像を向体が見つけ、その神様

に見立ててしまつて自分似の仏像のことはすっかり忘れていました。私が気に入つた神様の像は太くを持つ神様「雷神」と、風の袋をかかえた「風神」です。これらは五こほつじょうをもたらず神様だということでした。そしてもう一つ気になったのは、インドの神様です。頭へびをまいてるぶきみな神様で、小さなそれだけのかげ口を言う大きなはつをあたえられると書かれていました。私は、はつがいやだから、うそやかげ口を言わないでおこうと思いました。

そして、私は三十三間堂を造つた平清盛が、どんな気持ちでこのお堂を造つたのか考えてみました。私は、きつと清盛はこのお堂をどうだすこいだろうとみんなに見せたかつたと思います。ここに立つと、清盛がどれだけえらい人があつてくよくよく分かります。そのとき父が、「芽楼、パパは、こを見てこつたかいしたよ。六年生とときにれき史を習つていたのに、ぜんぜん勉強してないかつたことを思い出したからだよ。」

ときどきそうに言いました。だから私は、「はい。私はこつかしいないよ。に、がんばつて勉強します。」と、はりきつて言いました。その他、清水寺、金かく寺

などもめぐつて、色々なことを知るこができてとても楽しい時間をすごしました。このお寺めぐりのことをこれから勉強に(特に社会科に)活かしたいと思つています。私はれき史が大好きなので、日本だけでなく世界のれき史にも、かん心をひろげて、様々なことを調べてみたいですよ。

【評】(両親からもらつたサブライズの京都旅行、待ち遠しかつたですね。お寺めぐりの中で芽楼さんがいちばん興味をもつたのは三十三間堂でした。)

お父さん、お母さんからのアドバイスや説明で、仏像への自分のイメージを広く、ぐいぐい引きこまれていく様子が伝わってきます。実物をつかり見たり、聞いたりするこで、芽楼さんの調べたいことや知りたかつたことが、より確かに深まっています。様々な神様の教えを自分の生活にも生かすこで考えたり、平清盛の気持ちになりきつて自分の想像をふくらませています。

日本の歴史のおもしろみや深さを身をもって経験できたお寺めぐり。そのきつかけをつくつてくださったお父さん、お母さんに感謝ですね。これからの芽楼さんの歴史学習に期待しています。

【指導者】渡辺一平